

開幕まであと3か月！

えがお 愛顔つなぐえひめ国体



9月30日(土)
10月10日(火)

第72回国民体育大会 君は風 いしづちを駆け 瀬戸に舞え

「えがお愛顔つなぐえひめ国体」の開幕まで、いよいよあと3か月。シリーズでお知らせしている国体関連情報の第4回目は、「民泊」についてご紹介します。

本市は国体期間中、全国から訪れるフェンシング競技の選手・監督のうち成年女子、少年男子、少年女子54チーム約200人の民泊を受け入れます。

民泊って？

昭和33年の富山国体から取り入れられた宿泊方式で、全国から参加される選手・監督が一般家庭などで宿泊することをいいます。

民泊をお手伝いする組織を「民泊協力会・国体協力会」といい、本市には各公民館を拠点とする20の国体協力会があります。(詳しくは広報8月号で)

これまでの民泊では、「まごころのこもったおもてなし」が、体験した選手や監督に深い感動を与え、受け入れた地域では国体後も続く絆が生まれています。

本市では、民泊を実施することにより、選手や監督と地域の人々との心のふれあいが深まるとともに、「四国中央市」を全国の多くの人に知ってもらえることを期待しています。また、国体協力会を通して、地域の連帯感を一層深める絶好の機会と考えています。



国体協力会

国体協力会では、市民のみなさんのご協力のもと、民泊をするチームの受け入れ準備を行っています。宿泊先の手配、提供する食事の調理実習、拠点施設のまわりを花で飾る「花いっぱい運動」、のぼり旗の設置など、おもてなしの心で現在も取り組んでいます。



民泊の形態

民泊は「共同民泊」の方法で行います。

食事(朝食・夕食)は公民館で、共同調理により提供し、選手や監督はみんな同じものを食べます。この食事は、国体協力会の調理班から提供され、各地区の婦人会や民生委員など、地域の方々の心のこもった手作り料理です(下の写真は本市の特産品で作られたレシピ)。

宿泊などは民泊家庭で行うことになります。



しこちゅ〜レシピ



民泊家庭として応募した方にお話を聞きました♪

Q. 民泊のことをどうやって知りましたか？

A. 自治会長さんから、公民館で民泊を受け入れてくれる家庭を探していると聞き申し込みました。

Q. なぜ申し込もうと思ったのですか？ご家族の反応は？

A. 普段から、お遍路さんや外国の方を家に招いたりしているので、民泊を受け入れることに抵抗がありませんでした。また家族もみんなスポーツ好きで賛同してくれました。

Q. どんなことを楽しみにしていますか？

A. 四国中央市のことを知ってもらいたいと思うし、この機会に交流を深め相手の地域のことについても知りたいです。また、四国中央市のおもてなしを味わってもらいたいと思っています。

Q. どんなことに気をつけたいですか？

A. 一番は選手のコンディション。試合当日までの体調維持です。公民館と連携して、選手たちの希望に沿えるようサポートしていきたいです。



村上憲市さん(金生町下分)

普段からいろんな方との交流を楽しんでいる村上さん。選手のみなさんに会えるのをとても楽しみにしています。